

説教題：「**神の賜物と知る**」

聖書箇所：エフェソの信徒への手紙2章1-10節 (353頁)

説教者：秀島牧師 招詞：讚美歌93 - 1 - 43 交読詩編：詩編115編1 - 11節 (127頁)

讚美歌：83/60 (どんなにちいさいことりでも) /442 (はかりも知れない) /472 (わが身の望みは) /27

「今週の聖句」 「事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。」 (エペソ書2：8)

「牧師室の窓」 「バチカンの新教皇の初仕事戦争止 (や) めよと神意を伝 (つと) う」

「鎌倉の修道院にて聖書 (ふみ) 学ぶ新緑薫り鳥はさえずる」

(1) 皆様おはようございます。ゴールデンウィークで始まりました5月はまさに新緑の真っ最中です。この時期は植物が成長し、私たち人間も心身共に成長する時期であります。子供も成長し、大人も成長する時期です。病気や怪我に負けない体力は、食事の栄養により、身体の運動により養われます。日常のバランスが取れた食事と適度な運動が必要です。皆様は如何でしょうか。私は学生時代に下宿生活をしていました。学校の食堂と街中での食堂 (お客が10人も入れないような食堂) でお世話になっていた時期がありました。節約のため、90円の定食ですが、ワンランク上の110円の定食を食べるのが夢でした。ご亭主と奥さんが残っていた魚の骨を油で揚げ、90円の定食に添えてくれました。揚げた魚の骨に醤油をかけて、口の中で何回もよく噛みました。美味しかった、嬉しかったですね。その小さな食堂の名前がハレルヤと言いました。当時はハレルヤの意味を知りませんでした。後になってそのご夫婦はクリスチャンであったと知りました。

…そのような体験があり、私はよく噛んで食べることを勧めています。一口30回、60回は噛むように、そうすると食べ物が少なくてもお腹が一杯になり、栄養が吸収できて、健康にも良いのです。食料が不足に場合や、お米が値上がりしている現在では効果があると思います。政府も議員さんも是非とも、よく噛んで食べることの大切さを国民に伝えて頂きたいと願っています。…聖書も同じです。何回も読んで味わうことが大切です。

(2) 本日はエフェソの信徒への手紙を読み解く第3回目です。2章の1節～10節を読んで参ります。エフェソの町は前回、前々回に申し上げました様に、現在のトルコ共和国の西側で地中海のうちのエーゲ海に面した港町、商業で繁栄していた町でした。当時の世界の七不思議に数えられていた巨大な建築物である女神(めがみ)アルテミスを信仰する神殿がありました。パウロはこの町に2年以上滞在してテント張り職人の仕事をしながら、イエス・キリストの福音を伝え、多くの人々がクリスチャンになりました。使徒言行録19章によれば、「(言行録19:18)信仰に入った大勢の人が来て、自分たちの悪行(あくぎょう：悪い行ない)をはっきりと告白した。…(19:20)主の言葉はますます勢いよく広まり、力を増していった。」と書かれています。

本日の第1節を見てみましょう。 「(2:1)さて、あなたがたは、以前は自分の過ちと罪のために死んでいたのです。」 エフェソ教会の人たちは、パウロからイエス・キリストの復活信仰が伝えられるまでは「自分の過ちと罪のために死んでいた」と書かれています。

どういうことでしょうか。「過ち」とは、「行き過ぎる、不法侵入する、迷い込む」という意味です。自分では良かれと思っていたが、考えが足りなかった状態です。また、「罪」とは、ギリシア語で「契約違反・的はずれ」という意味があります。次に、「死んでいた」とはどういうことでしょうか。「死」には、3つの意味があります。その第1は「肉体としての死、生物としての死です。人間は誰もが経験する死」であります。その第2は「精神の死、つまり、神に祝福を受けていない状態」と言っ

てもよいでしょう。第3は「永遠の死、つまり、神に見放された状態」であります。私たちは生きてはいても、「精神の死、つまり、神に祝福を受けていない死」を経験することがあります。

そのことが2節以下に書かれています。

(3)2節～3節を見てみましょう。〔(2:2)この世を支配する者、かの空中に勢力を持つ者、すなわち、不従順な者たちの内に今も働く霊に従い、過ちと罪を犯して歩んでいました。(2:3)わたしたちも皆、こういう者たちの中において、以前は肉の欲望の赴くままに生活し、肉や心の欲するままに行動していたのであり、ほかの人々と同じように、生まれながら神の怒りを受けるべき者でした。〕鋭い指摘ですね。自分自身の置かれている状況を客観的に見直し、反省をしていることが伝わってきます。言葉の意味を確認しておきましょう。2節に書かれている「この世を支配する者」とは、権力者、或いは、権力・財力を人間に見立てて擬人化しています。「空中に勢力を持つ者」とは、悪魔を象徴しています。この手紙が書かれた約2千年前には、人間の住む地上と神のおられる天との間には神に逆らう悪魔がいたと信じられていました。解説書を見ると、「空中」とは地上から月までの空間であり、人間世界に影響を与えていたと思われるようです。

「空中」の妥当性は別にしても「この世を支配する者…不従順な者たちの内に今も働く霊に従い、過ちと罪を犯して歩んでいました。」と読むならば、現代社会に生きる私たちにも、耳の痛い、心が苦しくなる指摘であります。3節の〔(2:3)わたしたちも皆、こういう者たちの中において、以前は肉の欲望の赴くままに生活し、肉や心の欲するままに行動していたのであり、ほかの人々と同じように、生まれながら神の怒りを受けるべき者でした。〕この第3節に対しては、現代の人々にも当てはまり、私の人生もそうでしたと、首(こうべ)を垂れるのみです。現代は多くの人々は生産活動と言うよりは「消費生活」をしています。「消費生活」とは、欲望の赴くままの生活、行動ではありません。そうではなくて、地球の環境を守り、法律や経済を整えて人々が安心して生活ができるように努めなければなりません。併し、それだけでは不十分なのです。人間の生活には、人も物も金も情報も必要であることは当然ですが、人々を愛する、神仏を愛する気持ち・精神が不可欠であります。私は「消費生活アドバイザー」と言う資格を30数年前に取得して、5年ごとに更新の研修を受けています。この30数年間を見ても、日本の社会には命を大切にす、個人を尊重する考え方が大事にされている様には思われません。この3節に書かれている様に「…欲望の赴くままに生活し、肉や心の欲するままに行動していた…、生まれながら神の怒りを受けるべき者でした」を自覚することが不可欠なのです。教会はその為に祈り、働かなければなりません。

(4)4節5節を見てみましょう。〔(2:4)しかし、憐れみ豊かな神は、わたしたちをこの上なく愛してくださり、その愛によって、(2:5)罪のために死んでいたわたしたちをキリストと共に生かし、——あなたがたの救われたのは恵みによるのです——〕ここには神とはどの様なお方であるのか、死の中にある私たち人間をどの様に生かし、救われたのかを短い言葉で言い表しています。その具体的な方法が「罪のために死んでいたわたしたちをキリストと共に生かし」という言葉に現れています。私は思うのですが、ここにキリスト教の核心があります。前回、前々回にお話ししました言葉で言いますならば、「核心、即ち、1丁目1番地」です。一人キリスト教のみならず、仏教では、お釈迦様や大日如来様のお導きと読み替えることが出来るでしょう。私は仏教にも敬意を持って共に信仰を大切に参りたいと願っています。

6節7節には、キリスト・イエスによって私たちが共に復活させ、神は、その限りなく豊かな恵みを、来るべき世に現そうとされたのです、と書かれています。「キリスト・イエスによって共に復活させ」とは、どのように理解したら良いのでしょうか。生命体として生きていても、精神的に閉じ込められている人が「復活」して、生きる喜びが与えられることは、現代の精神医学のみが担当する分野であるとは限りません。

キリスト教には人間を「復活」させると言う考え方があります。それは「洗礼を受ける、受洗」であります。洗礼によって今までの自分が死んで、新しい自分が生まれるのです。まったくもって馬鹿馬鹿しいことのようにですが、そうではありません。新しい自分へと生まれ変わるのです。そして、その後の人生は、「聖餐」式での、パンとぶどう酒（ぶどうジュース）をいただく度に、「神の恵み」に感謝し、「キリストと共に生きる」ことの感謝を確認するのです。私たちの教会では毎月1回「聖餐式」を行なっています。神に感謝し、自分自身を振り返る機会が与えられているのです。このことはありがたいことです。人間の一生を、食べて飲んで可笑しく面白く暮らすことも一つの生き方でありましょう。人間の一生には、「上り坂・下り坂」そして「まさか」の時もありましょう。日々、神の「限りなく豊かな恵み」に感謝する生活は、心の中に沢山の大きなプレゼントが与えられるのです。そのことが8節に書かれています。お読みします。〔(2:8)事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。〕ここに「神の賜物・ギフト」と書かれています。嬉しいですね。

(5) 10節には、「神の賜物」が何故、与えられたのかが書かれています。言ってみれば、一種の「説明書き」或いは「取扱い説明書」と言うことが出来るでしょう。10節を読みます。〔(2:10)なぜなら、わたしたちは神に造られたものであり、しかも、神が前もって準備して下さった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その善い業を行(おこな)って歩むのです。〕この箇所ですが、私たちが使用している新共同訳聖書では「わたしたちは神に造られたもの」と書かれています。一方では、以前の口語訳聖書や最新版の聖書協会共同訳では「神の作品」と翻訳されています。いずれの翻訳を好まれるかは皆様のお好みであります。そして、「私たちの体も命も霊も」神がおつくりになられた神の作品であります。世の中には、私たちの体や命が自分自身の所有物であり、自分の思いのままに勝手に生きることが、自由に生きることであるとの主張がありますが、聖書や教会の思いとは異なります。何故ならば、この10節には「神が前もって準備して下さった善い業のために」と記されています。今日の聖書箇所には「自らの力によるのではなく、神の賜物」、そして、「わたしたちをこの上なく愛して下さる神の恵み」に感謝できるからです。

・・・お祈りします。

イエス・キリストの主なる神様。私たちは、主の復活・イースターの後に日々感謝しつつ、2週間後の6月8日には聖霊降臨日・ペンテコステを迎えようとしています。ありがとうございます。神の恵みに感謝します。これからも信仰を導いて下さいますようお願いいたします。

神が創造されましたこの地球上に生きる一人ひとりに平安と希望が与えられますように。食べ物が乏しい人々に、災害や戦争の只中にある一人ひとりに慰めがありますように、お守りください。私たちに知恵と勇気をお与え下さい。

教会に連なる一人ひとりに、地域で生活している、働いている一人ひとりに、主なる神の御恵みと平安がありますように。

イエス・キリストの御名によって祈ります。 **アーメン**